

「化石の研究から見た地球環境問題」

間嶋隆一（横浜国立大学大学院環境情報研究院，理工学部地球生態学EP）

化石の研究と地球環境問題

化石の研究から解読された地球の歴史は，生命の絶滅と誕生によって区切られ，これらの区切り（地質年代）は，地球環境が私たちの想像を絶するほど激しく変動していることを示しています．地球環境の変動は，私たちの文明が経験してきた短周期のものから（数年，数十年，数百年に一度起こるような変動），地層にしか記録されていない長周期（数千年，数万年，数十万年，数千万年，数億年に一度起こるような変動）のものまであります．長周期の変動は人類の文明が経験したことの無いほど激烈なものでした．長周期の変動を語ることは夢物語のように聞こえますが，そうした変動が私たちの生涯の間に起こらないとも限りません（東日本大震災を思い出して下さい）．実際にどのような事が起こったのかを明らかにすることは，私たち人類の未来の設計にとって極めて重要なことです．私たちが科学的な地球観察を始めてから100年程しかたっていないという事実を忘れてはなりません．

地球環境問題とは？

私たちの時間感覚で見た周囲の環境は安定していて，人類の活動だけが地球環境を変えているようにも見えます．また，「地球にやさしく」という標語に見られるように，まるで地球を人類が支配し，地球が私たちの活動によってどうにでもなるような錯覚さえ憶えます．こうした地球観は正しい見方なのでしょうか？ 化石の研究が明らかにした地球環境は，「地球はやさしく」などないことを示しています．地球から見れば現在的人类活動による地球の「汚染」などは，地球表層の物質をほんの少しかき回した程度のもので痛くも痒くもありません．もし，人類の活動によって，人類を含む多くの生物がこの地球上から絶滅したとしても，その後には，新しい環境に適応した新たな生命がこの地球に栄えるだけのことなのです．では，地球環境問題とは何なのでしょう？

人間にとって一番大切なものは人間です．人間が栄えるためには他の生物がどうなろうと知ったことではないのです（病原菌の絶滅に心を痛める人がいるのでしょうか？）．地球環境問題は人間環境問題に他なりません．私たちが「汚染され破壊された地球」の中で，他の生物が絶滅してゆくを見るとき，私たちはそこに自分たちの未来を見るのです．自分たちの未来に心を痛めるのです．人類と似たような生活様式をとる他の生物が生きてはいけない「汚染され破壊された環境」の中では人類もまた生きてはいけないのです．つまり，私たちは極めて微妙なバランスによって保たれた自然環境の中でしか生きてはいけないのです．